

偶成（松平春獄）

眼に見る 年々 開化の 新たなるを

才を 研き 智を 磨き 競うて 身を 謀る

翻つて 愁う 習俗の 浮薄に 流るるを

能く 忠誠を 守るは 幾人か 有る

眼見年年開化新 研才磨智競謀身  
翻愁習俗流浮薄 能守忠誠有幾人

解説 一人の立身出世の為であるにすぎないような風潮を  
苦々しく見つめる詩である。

語釈 ※開化Ⅱ文明開化。※才Ⅱ才能。技術。※智Ⅱ知識。  
※謀身Ⅱ一身の栄達をのみ考えること。※習俗Ⅱ風俗とい  
う意味もある。※浮薄Ⅱうすっぺらなこと。軽薄に同じ。  
※忠誠Ⅱ天下万民のためにする志。

通釈 世の中は、年を逐って開化と称する欧化が進んでい  
る。人々は競って西欧流の技術や知識を学んで身につけ、  
立身出世を図っている。往時、学問をしようとするほどの  
人であれば、まず第一に天下の為に学んだことと比べれば、  
今、学問をする人の軽薄に赴くことは、愁うべきである。  
この様な時に、天下国家のための志を忘れずに守っている  
者はどれほどいるであろうか。